

りんどう
LC通信
かわら版

平成15年
11月14日号
通巻第16号
PR委員会発行

【残念だったバルーン撮影会】

十一月三日文化の日、秋の澄みきつた空に舞うバルーンを撮ろうと朝の五時から佐賀嘉瀬川河川敷へ直行。晴れると思っていた天気は曇り。国際的な大会なのに中止。そりゃないぜ。エークソ。朝飯も喰わんで出てきたのに。バルーンの図体は大きいのに、天候に左右されるデリケートな乗り物だとわかった。もう後は飲むか喰うかだけ。小城の清水滝へ行き「鯉の洗い」を大船に十人分盛ってもらって、写真撮影が中止になった腹癒せに鯉三匹を血祭りにあげた。悪いことをしたなア。コイさんごめんね。



【今年もりんどう千両役者 熱演す】

今年も吉例の久留米市民芸能祭が十月二十五日、市民会館で華々しく開催された。我がクラブから千両役者（らしき）が三人（柴田泰公、「泉元」、「松尾拓也」）舞台の上で大見栄を切った。艶な姿の大中小の役者は劇場の客をつっとりさせた（様に見えた・・・）。

映画『ウィニング・パス』 試写会へ行く

十一月十日、りんどう会員（川嶋会長外7名）は「ウィニング・パス」の映画試写会の招待を受け福岡市高宮町にある福岡市女性センターアミカスで映画鑑賞を楽しんだ。映画の内容は主人公である男子の高校生が交通事故によって下半身麻痺になり、級友たちの励ましによって車いすバスケットボールを始めて、体のハンディや精神を立ち直らせ、車いすバスケットボールを通して元気になっていく姿を描いた作品。我々は車いすの選手の内面を知ることができなかったが、この映画は我々の知らない選手の苦悩をよく掴んだ映画であった。皆さんもぜひ観られることをお勧めします。

【文集に写真展と大変】

車いすバスケットボール大会も無事に終わった。恒例の中学生諸君が撮ってくれた写真展用の写真選びを十月十六日、事務局で行った。環境保全委員会・社会福祉委員会と、腕が自慢のカメキチ（亀の気遣いではない）が十五名程集まって1,000枚余のナイスショットの写真を選んだ。どれも、甲乙つけがたく写真を選ぶより、この写真を選ぶことの方が大変であった。まずは、秀作、傑作を三十枚程度選び市役所で写真展を開催する。

犬声狎語

日々には秋は深まりゆく。日本酒や鍋物が旨い時候である。この頃の日本酒は美味になったが、コンビニエーターで管理して造るから個性のない酒が多くなった。9月・10月はりんどうは忙しかった。各委員会の方々はそれぞれに大変あったらうと思っ。▼華興獅子会の皆さんも無事帰園され我々もまずはひと安心。こちらは30周年だと張切っているのに、あちらから訪日された会員は6人とその家族何ともさびしい記念行事になってしまった。一体華興獅子会のクラブ運営はどうなっているのか。我々のクラブの様になっていないのは確かの様である。来日するまでは、何人来るのやら毎年の事ながらわからない。これもお困り。▼車いす、華興獅子会来日と大きな行事が続く、クラブ内の諸活動の報告が遅れてしまった。元々「かわら版」とは情報の速報性が売り物の商品。それがどうも役目を果たしていないことになってしまっている。編集子も会員の諸兄に申し訳なく思っている次第である。▼何かおもしろいものを作ろうと思っいても情報不足で旨くない。ま、こちらのネタ不足だからお許しをいたさう他はない。いいネタがあったら教えてください。編集子が先月L、加藤から聞いた話・・・L、加藤は小学時代は東京都中野区第二桃園小学校卒業。同窓生に俳優の根上淳や作曲家神津善之がいる。ペギー葉山や中村メイコも同校の友達。先月新宿での同窓会に出席された由、二枚目スター根上淳はどうしていますかと訊けば「ありやア、もうダメばい。女房のペギー葉山が車いすで看病しよるげな」あの二枚目が考えられない、想像できないことである。昔の大映の映画「十代の性典」での若尾文子とのラブシーン。あの映画を見て二十三日寝られなかったことを想いだす。お互いに歳をとったもんだ。こんな話があったらたくさん聴かせてください。

華興獅子会姉妹締結三十周年記念事業

第二十回りんどう杯

車いすバスケットボール九州大会

中学生写真展示会のご案内

（期間）平成15年11月30日～12月9日

（場所）久留米市役所二階ホワイエ

～12月9日は障害者の日～